



ステップスギャラリーオーナー、吉岡まさみの個展である。吉岡は前回、テープインスタレーションの作品を発表したが、今回は前々回のカラードバーの展開系の作品を見せた。前回のカラードバーは一本の木片の中心から分けて異なる二色で着色されているものであったが、今回のそれはマスキングテープで区切られ、様々な色が乗せられている。形もストレートの作品と交差する作品という二種類に増えている。交差する作品は一本を水平/垂直にすると十字になり、傾けると×=バツ、若しくは数学のカケルのよう

に見える。いずれにせよ、我々が携える時間と空間は、もう還ってこないことを示唆しているように私には感じた。それは東洋の無常、西洋の無情を指し示すのではなく、それらが根底に持っている本質を暴いているとも言えるのではないだろうか。吉岡の仕事の全貌が、今回のカラードバーで明らかになったと私は思う。テープインスタレーション、スクラッチドロ잉、Art Cocktail 2017 で発表した新シリーズ《Puzzle 2017》、写真のコピーなどが、全て繋がるのだ。吉岡はこれから凄いことになる。

